

将来都市像

『多彩で豊かな交流が広がるまち 習志野』

1. 計画名：習志野市基本構想

基本構想は、まちづくりの基本的な考え方や方向性を示すものです。また、基本構想を実現するための具体的な施策である基本計画、施策の実現に向けた個々の事業である実施計画までをまとめて「習志野市長期計画」と言います。

習志野市長期計画は、本市不変のまちづくりの基本理念である「文教住宅都市憲章」に次いで、本市のあらゆる計画の最上位に位置付けられる計画です。

2. 計画期間

基本構想は、令和8(2026)年度から令和23(2041)年度までの**16年間**とし、「基本計画」は、基本構想の計画期間を前期・後期に分け、それぞれ8年間としています。また、実施計画は社会の変化や市民ニーズに柔軟に対応するため、計画期間を1期当たり4年間としています。



3. 目的と課題認識

これまでも市民一人ひとりが夢と輝きをもって自己実現を果たし、あらゆる主体を互いに認め、理解合いながら、みんながやさしさでつながるまちづくりを推進してきました。

しかし、本市を取り巻く社会情勢は様々な面で新たな局面を迎えております。今後のまちの持続的な発展に向けて、主に次の課題があります。

課題① 人口構造の変化への対応

課題② コンパクトで利便性の高い都市空間の維持・形成

課題③ いつまでも安全・安心で自分らしく暮らせるまちの充実

課題④ 地域経済の活力の維持・増進

課題⑤ 生涯にわたって人とつながり、いきいきと暮らせる社会の充実

課題⑥ 持続可能なまちづくりを支える自治体経営の推進

※1～3の詳細は「長期計画の策定にあたって」を御覧ください。

4. 目標

このような様々な課題の解決に向け、常に未来を見据え、これまで以上に幅広い立場や主体がともに考え、手を携え、認め合い、尊重し合い、『多彩で』『豊かな』活動を行い、永続的に『交流』し、いきいきと暮らし、『広く』活躍できる仕組を構築し、まち全体を発展させることを目指し、みんなで目指す習志野市の将来都市像として、『多彩で豊かな交流が広がるまち 習志野』を将来都市像と決めました。将来都市像を目指すにあたっての基本的な考え方は次のとおりです。

まちづくりの基本的な考え方

「多彩で豊かな交流」を培います

「交流が広がるまち」を育みます

都市空間形成の基本的な考え方

コンパクトな生活圏の維持と形成

中心市街地の求心力向上

新習志野駅勢圏の活性化

自然景観を活用した魅力の創出

5. 内容

(1) 3つのピース

将来都市像を実現するための要素を「まち」と「ひと」、そしてそれらから生み出される「活動」の『3つのピース』としました。

すべてが協和し充実する「活動」

国籍、人種、性別、年齢等に関係なく、平和を願いつつ市民同士がつながり、協力し合い、自分らしく暮らせるまちづくりを進めます。また、様々な世代や立場の市民が主体的に学べる環境の充実や社会参加の機会拡大を図ります。さらに、新たな時代に対応した地域産業の振興を積極的に支援し活性化を図るとともに、地元での雇用創出と若者の定住促進を目指します。



※3つのピースは密接に関連し合い、循環することにより、将来都市像の実現を目指します。

育み学び健康で笑顔輝く「ひと」

生涯にわたって健康で元気に暮らし続けることができるよう、医療と福祉、保健の充実を図ります。

また、こども・若者が持つ可能性を最大限に引き出し、自らの夢や希望を実現できるよう、教育、学習環境や人材育成の拡充を図るとともに、誰もが子育てをしやすい環境を整え、支援体制を強化します。

さらに、市民一人ひとりが互いに支え合いながら、未来を担うこども・若者から高齢者まで、すべての世代が輝き、躍動するまちを実現します。

いつまでも住み続けたい「まち」

すべての市民が便利で充実した暮らしができるまちを目指し、都市基盤の計画的な整備と適切な維持管理に取り組むとともに、循環型社会や脱炭素社会の実現に向けた活動など、環境にやさしいまちづくりを推進し、暮らしにゆとりと豊かさをもたらします。

また、ハード面とソフト面の両面から防災・危機管理体制や防犯、交通安全対策の強化を図ります。

さらに、都市機能の最適配置や新しいまちづくりに取り組むとともに、居住や産業等の都市機能と自然環境がバランス良く調和した土地利用を進め、まちの魅力や可能性を最大限に高めます。

(2) 市政経営の基本方針

本市に係るすべての施策や事業は、それぞれが相互に作用して経済的な効果を生み出し、様々な形で本市に還ってくることを深く認識し、将来にわたる持続可能で安定的な行財政運営を目指すため、

「あらゆる循環を想定した持続可能な行財政運営」

を基本方針として、次の内容を踏まえた行政マネジメントを推進します。

◆**多様な主体との連携** 互いに連携、協力する「協働」によるまちづくりを、これまで以上に推進します。

◆**徹底的なデジタル化** 利便性の向上や個別のケースに応じたサービスの充実、あらゆるニーズに対応します。

◆**経済効果の追求** 経済循環を念頭に効率的、効果的かつ固定観念や前例にとらわれない新しい視点や発想を積極的に取り入れます。